

令和6年度 公益財団法人日本いけばな芸術協会事業報告

(1) 事業の概要

私たち公益財団法人日本いけばな芸術協会は、流派の壁を越えた、いけばな芸術の普及活動に取り組む者を会員としており、事業は、会員と理事会、事務局の協働により実施している。

1 展覧会

1-1. 本部展

「第57回日本いけばな芸術展」を令和6年4月17日(水)～22日(月)の会期で、高島屋大阪店を会場として開催した。協会の会員である各流派の家元等わが国のいけばな界を代表する専門家98流派629名が作品を披露し、コロナ禍以降最大となる26,431名の入場者に、芸術としてのいけばなに触れ、興味を持ち理解していただく機会となった。また、会場通路には、「いけばな文化史年表」と日本語と英語訳をつけた「時代におけるいけばなの花型」、「協会のあゆみ」のパネルを展示し、いけばな芸術に関する普及・振興を図った。

4月20日(土)には、「こどもいけばな体験教室」を特設会場において開催し、小学1年生～中学3年生の38名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れ、いけることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

1-2. 地区展

「第9回日本いけばな芸術信越展」を令和6年10月9日(水)～14(月)の会期で、新潟伊勢丹を会場として開催した。新潟県において20年ぶりの開催となる本展は、地区展の目的でもある「地域文化といけばな融合」のもと、新潟県の工芸界を担う5組の作家とのコラボレーション作品席、一般からの出品席も設け、広く伝統文化の浸透を行った。協会役員と信越地区における協会の会員である各流派の家元等わが国のいけばな界を代表する専門家22流派233名が作品を披露した。また1階サークルダンロには「お迎え花」を、会場通路には、「いけばな文化史年表」と「時代におけるいけばなの花型」、「協会のあゆみ」のパネルを展示しいけばな芸術に関する普及・振興を図った。

10月12日(土)に「こどもいけばな体験教室」を特設会場において開催し、小学1年生～中学3年生の25名が参加した。協会発行の「こどものいけばな」をテキストに、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

10月9日(水)に「第9回日本いけばな芸術信越展交流会」をホテルオークラ新潟にて開催し、地域の各種担い手とメディア関係者、一般からの出品者と会員との出会いの機会を提供し、地域文化といけばなを通じた地域振興が促進される基盤が形成できた。参加者から飲食代実費17,600円を徴収している。

1-3. 特別企画展

令和7年に開催する「日本いけばな芸術特別企画展 in 大阪・関西万博」の準備業務として、西部地区の会員を対象とした説明会を開催した。特別企画展は、いけばな芸術の振興を図ること、日本と地域の再発見を促すことなどを目的に開催するため、1部では公益社団法人2025年日本国際博覧会協会より講師を喜田真吾氏に依頼し、「大阪・関西万博に向かって」と題した特別講演会を実施。万博公式キャラクター「ミャクミャク」を会場に登場させた。2部は、特別企画展の説明と令和7年度事業について説明を行った。実参加者から参加会費2,200円を徴収している。

2 調査、資料収集

令和6年度は実施せず。

3 会誌・事務局報の発行、WEBサイトの運営

会誌「花」第49号を令和6年8月20日に発行した。第56回日本いけばな芸術展等に関する報告、令和6年度理事会・

評議員会報告、会計書類等を掲載し、会員への周知がはかれた。作成部数は4,000部である。WEBサイトから申し込みのあった一般の希望者に会誌（2冊）を提供した。

「事務局報」第5号を令和6年4月20日に、第6号を12月20日に発行し会員相互の情報を提供した。作成部数は各4,000部である。

WEBサイトの運営では、ホームページに情報公開（令和6年度事業計画、令和6年度収支予算書、令和5年度事業報告、令和5年度会計報告）の更新をした。「6月6日はいけばなの日」周知のため、共通ハッシュタグをつけたインスタグラムへの投稿など、情報の発信をした。

4 いけばな普及に関する出版物頒布

「こどもいけばな」「はじめよう！いけばな」の頒布により、いけばな芸術の振興を図ることができた。

「こどものいけばな」は、令和6年度新入会者、こどもいけばな体験教室参加者に頒布した。またWEBサイトでご覧になった希望者等には一冊330円で販売し、いけばなの普及活動ができた。「こどものいけばな」の令和6年の頒布数は1,160冊（うち販売は900冊）で令和6年12月末の残部は11,760冊（うち重版10,000冊）である。

「はじめよう！いけばな」は、令和6年度新入会者、いけばな体験教室参加者に頒布した。またWEBサイトでご覧になった希望者等には一冊550円で販売し、いけばなの普及活動ができた。「はじめよう！いけばな」の令和6年の頒布数は857冊（うち販売は712冊）で令和6年12月末の残部は4,396冊である。

5 いけばな普及活動事業

「清流の国ぎふ」文化祭2024（第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭）

岐阜メモリアルセンター「で愛ドーム」において、招待出品としていけばな作品を展示し、幅広い世代に向けたいけばなの普及発展と岐阜県会員、岐阜県におけるいけばな団体とのつながりを深めることができた。また、いけばな体験教室には、協会発行の「こどものいけばな」をテキストとして提供し、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。

農林水産省YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF」における「花いっぱいプロジェクト」の動画投稿

農林水産省の依頼により、いけばなの動画制作に協力し、広く一般に向け、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

農林水産省「和の空間」いけばな展示

農林水産省の依頼により、農林水産省別館玄関ホールの組立式茶室「和の空間」において協会所属流派による作品展示を行い、いけばな芸術への関心と理解を広めることができた。

第33回森と花の祭典「みどりの感謝祭」式典插花

農林水産省の依頼により、「みどりの感謝祭式典」においてステージ上のいけばな装飾を行った。実際にいけばな芸術に触れる機会を提供することができた。

船場博覧会での体験教室

船場地域において伝統文化の振興を行う「船場博覧会」において、いけばな体験教室を開催し、直接花に触れることでいけばなへの興味を持つ機会となり、より豊かな人間性の涵養ができた。いけばな芸術の新たな、普及啓発の機会となり、継続的な開催が見込まれている。

6 助成（非応募型）及び寄附

豊かな人間性に根ざしたより良き社会の形成に寄与するため、不特定多数の者の利益の増進に取り組む団体に対して助成（非応募型）及び寄附を行った。寄附先及び金額は、公益社団法人日本動物福祉協会700,000円、公益財団法人がん研究会200,000円、公益財団法人高松宮妃癌研究基金200,000円、石川県令和6年能登半島地震災害義援金611,455

円、新潟県災害対策本部 587,840 円で、合計 2,299,295 円を寄附した。

その他の事業（相互扶助等事業）について

他 1 認証式

「令和 6 年度認証式」を、令和 6 年 4 月 16 日（水）スイスホテル南海大阪「浪華の間」を会場に開催した。名誉特別会員 46 名・特別会員 88 名・正会員 107 名が会員認証を受け、いけばな関係者 304 名の参加のもと、流派を超え交流を深める事ができた。

参加者から飲食代等として 19,800 円の実費を徴収している。

他 2 周年事業

令和 6 年度は実施せず。